

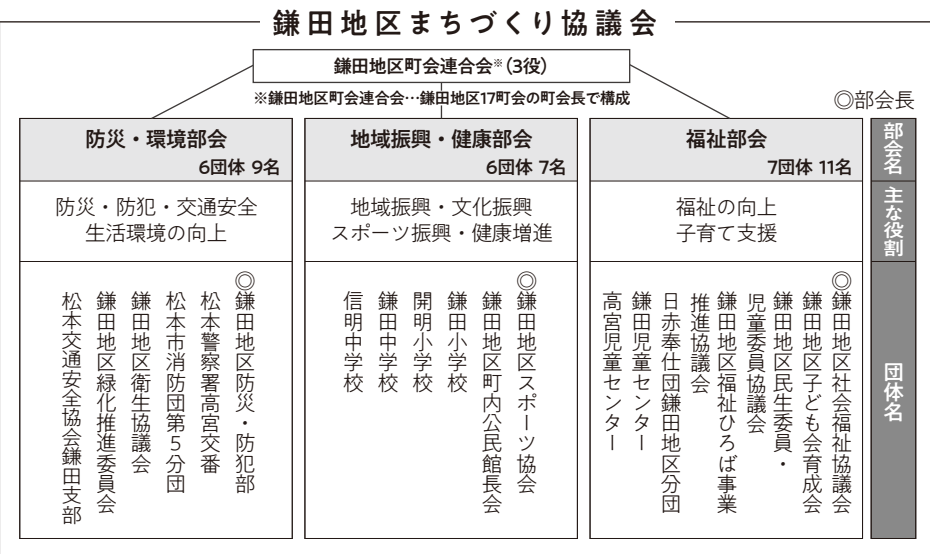
知りたい! 地域のあれこれ ③

# まちづくり協議会ってなに?



コロナ禍で設立が延期となっていたまちづくり協議会が、6月2日に設立総会が行われ活動を開始しました。本シリーズ第3回は、まちづくり協議会について、鎌田地区地域づくりセンター長の田中治さんに聞きました。

- Q 名称は?**  
A 正式名称は「鎌田地区まちづくり協議会」で、「まち協」と略されることがあります。
- Q 協議会のメンバーは?**  
A 下記の図のとおり、20団体30名で構成されています。
- Q どのような組織?**  
A 鎌田地区で安心して暮らし続けることができるよう、鎌田地区の各町会や既存の団体がつながり、地区の課題の共有やその解決に向けた取り組みを進めるために、地区全体を見渡せる組織を目指します。
- Q 今後の活動は?**  
A 当面の間、「福祉



部会「地域振興・健康部会」「防災・環境部会」の三つの専門部会を設け、まずはそれ

鎌田地区  
令和4年7月1日現在  
総人口 19,893人  
(前年比 +128人)  
世帯数 9,403戸  
発行者 鎌田地区公民館  
公民館報編集委員会



それぞれの部会で主な役割について話し合いをし、各種団体の取り組みを理解した上で連携を図ります。地域の皆さまが個々に抱える様々な困りごとを地域の情報として捉え、解決に向けて活動します。

国道19号線沿いにある消防団第5分団の詰所は、築後35年を数え経年劣化が進んだことから建て替えが行われ、6月19日に新しい詰所がお披露目されました。新詰所は、1階がポンプ車と積載車(可搬ポンプ)の車庫となっていて、資機材や団員の装備品が置けるようになり、2階は更衣室や団員の詰所、緊急の避難スペースにもなります。トイレも両階に設置され便利になっています。第5分団は鎌田地区と松南地区を受け持っていて、22名の団員(内、女性1名)が在籍しています。団員は自分の仕事を持ちながら災害発生時にはいち早く現場に駆け付け、消防署員とともに対応します。他にも消火訓練や大雨時の水防活動、火災予防の広報で地域を定期的に巡回する

**街かどの話題 149**

**松本市消防団  
第5分団の詰所  
うまれかわる**



詰所は鎌田南交差点の脇(高宮北)

など、皆さんが安心して暮らせる見守り活動を行っています。新規入団者が増えず、団員の高齢化も進んでいて団員不足が問題となっています。4月から年額報酬や出勤手当などが増額となり、処遇改善を図って、随時団員を募集しているそうです。鎌田地区は石芝町にも軽積載車が配置されています。小回りがきくので狭い場所の活動に便利とのこと。分団長の田中健司さんは「日ごろから避難用品や非常食などは家族分を用意する。携帯トイレの準備もお願いしたい」と話していました。地域の皆さん、いつ起きるか分からない災害に備えましょう。



久々の運動講座に  
はじける笑顔!!

長引くコロナ禍での運動不足を解消しようと鎌田地区公民館の出前講座「町内公民館でからだを動かそう」が月見町公民館で開催されました。

25名の参加者を2回に分けて密を避け、川西久美さん(鎌田地区公民館主事)の指導に沿って脳トレやストレッチをした後、転倒や腰痛予防の筋力トレーニングを約1時間行いました。

町会での久しぶりの顔合わせにハイタッチで喜び合う人たちもいて、終始和やかな雰囲気の中で運動の爽快感を味わう笑顔の日となりました。



動かす筋肉を意識してトレーニング (6月11日)

### 令和4年度 鎌田地区公民館 専門委員の紹介

鎌田地区公民館には住民の皆さんで構成する5つの専門委員会があり、公民館の事業検討や運営の中心となって熱心に活動をしています。

#### ◆館報編集委員会

- 小林 睦和(笹部)
- 小山 淳一(井川城中区)
- 南雲多榮子(月見町)
- 松川 靖彦(高宮)
- 松本 捷幸(両島)

#### ◆文化委員会

- 鎌倉むつ子(両島)
- 上條 玉紀(笹部)
- 清 興至(鎌田)
- 長井洋八郎(高宮)
- 林 清吉(両島)
- 村上さよ子(五月町)

#### ◆図書視聴覚委員会

- 大濱 マリ(村井町北)
- 高山みゆき(高宮)
- 中田 美千(井川城上区)
- 林 愛弓(渚)
- 前澤 裕子(征矢野)
- 横山 怜(井川城下区)

#### ◆スポーツ委員会

- 赤穂 勝貴(笹部)
- 今福 圭司(征矢野)
- 小倉 利夫(南原町)
- 小沢 智也(井川城中区)
- 近藤 邦人(鎌田)

#### ◆運営委員会

- 深澤 久江(五月町)
- 山本 英明(笹部)
- 小岩井定男(高宮)
- 近藤 邦人(鎌田)
- 南雲多榮子(月見町)
- 林 清吉(両島)
- 藤本 礼子(中条南)
- 町田 伸子(高宮)
- 松川 靖彦(高宮)
- 宮沢 生式(石芝東)
- 村松 昭雄(井川城中区)
- 望月 敏通(並柳)
- 横山 怜(井川城下区)

※五十音順・敬称略 ※◎委員長 ○副委員長

### 鎌田地区の歴史 ⑬



#### 信明中学校が開校 (石芝町・昭和60年4月)

信明中学校は鎌田・筑摩野両中学の生徒数増加とともに分離開校として、昭和60(1985)年4月に誕生した。事業費の総額は約26億円で、石川島芝浦機械が農機具の試運転用に所有していた広大な敷地に校舎・体育館・校庭が建設され、初年度の学級数は12クラス、生徒数は438人の規模で開校している。

校名「信明」の由来は、通学区の中心が旧信楽村に当たり、信州・信濃など「信」の字にゆかりが深いことと、「明」には明るく育てほしいとの地域の願いが込められており、地元町会の協議を経て決められた。

「新しい時代を拓く信明」とうたう校歌は詩人の秋山泰則さん(笹部町会)が作詞している。

### 雑感

高宮町会には満60歳以上の住民で組織する「高美会」という高齢者クラブがある。会員の心身の健康を保持し、

知識と経験を役立たせ、社会福祉の進展に寄与することと会員相互の親睦を図ることを目的とし、現在私も含め70歳以上の21名が会員登録している▼活動内容は、講習会やお茶会、カラオケ、日帰り温泉旅行、諏訪社・天満宮の境内清掃ボランティアなどを中心に行っている▼ここ数年はコロナ感染症の広がりを受け活動を自粛してきたので、ストレスを発散できずにいた方も多かったと思う。今年度はコロナ禍が落ち着き日常を取り戻す動きが見られるので、7月には「世界遺産をめざすお城講座」を行うなど、公民館を使った活動を再開し楽しんでる▼高齢化が進み人生100年時代と言われている。老老世帯や独居世帯が増加して、人付き合いも少なく孤立化する心配もある。認知症や心身の衰えを予防するために、大勢の人が一堂に会し、会話がはずみ笑顔があふれ、誰からも愛される「高美会」でありたいと思う。(松川靖彦)